

## 家計イベントの解説

## 資産運用の大切なポイント 第二回 《金融商品の性格と扱い方》

今回は資産運用の二回目です。前号で資産運用の基本的なところをお話ししました。今号では種々の金融商品の性格や取り扱いについてお話ししましょう。

どんな金融商品があるのでしょうか。まず、株式と債券、これに商品（穀物や金属資源などで、コモディティーと呼んでいます）を加えたこの3種を、ここでは基礎金融商品<sup>1)</sup>と呼びましょう。この基礎金融商品をいろいろ組み合わせて投資信託が作られます。

これらに、信用取引の考え方を組み入れて登場してきたのが、先物、オプション、FX、そして最近悪名高い証券化商品などです。これらは金融派生商品（デリバティブ）と呼ばれます。これらを、一つ一つ取り上げて論じていては一冊の本になってしまいます。ここでは、投資商品として横綱的存在である投資信託と、最近、主婦層にも大変人気があるとされているFXの2種を取り上げて、お話ししたいと思います。

まずは、投資信託です。もちろん皆さん名前は聞いたことがあると思いますし、すでに持っている方も多いでしょう。投資信託というのはその名前の通り、「投資を目的にお金を預ける（信託する）ために作られた金融商品」です。

その特徴は以下の3点にまとめられます。（1）売り易くするために、基礎金融商品を組み合わせたものであること。（2）内容（中身）は千差万別であること。世界には実に2万件ほどの投資信託が存在すると言われています。（3）専門家（ファンドマネジャー）が管理しているということ。安心感がありますが、その手数料が掛かります。

多くの投資信託があります。内容も性格も異なりますので、取り扱いは本当に注意が必要ですが、次の3点に集約できると思います。

（1）投資とは、前号でもお話ししたように一生もので、大切なものです。まずは、ご自身の投資スタイル（下に詳述します）を作ってください。そうすれば、株式や債券をご自分で組み合わせていく過程で、投資信託の活用法も見えてくるでしょう。要するに最初に投資信託ありきではなく、ご自身の投資スタイルに合った投資信託を購入するという事です。とても大切なことです。もちろん、内容（中身）の良く分からない場合は購入しないようにしてください。

（2）投資信託は、当初からセールストーク（販売にあたって、顧客の購買意欲をかき立てるような話術、話術）を同時に考えて作られています。そのセールストークに乗せられないことです。銀行などの窓口の人は、そのため（投資そのものではなくセールストークの使い方）の教育を受けています。話半分でも大き過ぎるくらいで、この点要注意です。買うにしても一度に多くの金額を投入しないことです。

（3）多くの投資信託に「分配金」が付いています。分配金は、債券の利息や株式の配当、株主優待とは異なります。いわんや“おまけ”ではありません。必ずしも投資信託の収益から出ているとは限らないことが注意点です。特に昨今のように収益を出せない状況では、身を削って（資産を売却して）分配金を出しています。基準価格<sup>2)</sup>の動向を注意している必要があります。

ここで、投資スタイルについて少し説明します。これは、投資のやり方、方針、好みといったものです。具体的には、長期投資か、短期売買か、どのような分散方針でポートフォリオ<sup>3)</sup>を作っているのかと言ったことです。自分の投資スタイルを作るにはどうしたら良いでしょう。まずは信頼できる、中立的な相談相手を見つけてください。そして、アドバイスを受けながら勉強をし、じっくりと時間をかけて作り上げていく以外に手はなさそうです。ご自身の大切なお金です、そう簡単に買ったり売ったりする訳にはいきませんよね。

今までの話をまとめますと、投資信託との付き合い方は、ご自身の投資スタイルにあったものを選ぶこと。中身の分からないものは買わないこと。一度に多くの金額を投入しないこと。「分配金」に惑わされないこと。と言えるでしょう。

次に、いま話題のFX (Foreign Exchange、外国為替証拠金取引) についてお話ししましょう。FXは、次の2点で説明できます。(1) 外貨の金利と為替の動きに着目して収益を上げようとするものであること。(2) レバレッジ<sup>4)</sup>を最大100倍程度まで利かすことができ、とてもハイリターン・ハイリスク<sup>5)</sup>商品になり得るものであること。

どのくらいハイリターン・ハイリスクか、数値を入れて試算してみましょう。例えば、豪ドルを対象とします。いま日本円との金利差が4.5%あるとし、100万円の資金があるとします。ここで仮にレバレッジを30倍とすると、1年間で100万円×4.5%×30倍=135万円の収益を上げられます。100万円の資金で135万円の利益が得られるのです。夢のような話です。

しかし、これに為替が関連しているのです。今の話に為替の変動を組み合わせてみましょう。買った時に、90円/豪ドルであったものが、1年後に80円/豪ドル<sup>6)</sup>に円高になったとしましょう。すると1年間の収益はどうなるでしょう。為替分は100万円×(80/90-1)×30倍=-333万円です。恐ろしい数字が出てきました。前述金利分が、プラス135万円、合計すると-198万円となります。この人は、元手の100万円を摩(す)った上に98万円の借金が出てしまいました。

昨今、海外の金利も下がってきました。為替の動きも予測通りにはいきません。FX取引が良くないとは言いません。しかしどう考えても、FXは投資に不慣れた人が取り組む商品ではありません。レバレッジを働かせたら、単にリスクが大きくなるだけでなく、場合によっては上例のように借金を作ることになることを理解してください。また、この辺を理解できない方はFXに手を出さないことをお勧めします。

次回は、モデルケースにより投資スタイルと投資のメリットなどについてお話しする予定です。

1): 「基礎金融商品」という専門用語はありません。私が説明の都合上、ここで初めて持ち出したものです。でも、なかなか良い表現だと思っています。

2): 基準価格とは、投資信託の価格です。株価と同等のもので、ですから、購入時の基準価格を覚えておいて、それがどのように変化するか、常に監視していただきたいものです。ちょうど株価を毎日見るように。

3): ポートフォリオというのは、金融商品の組み合わせ、あるいはその組み合わせを記したリストを言います。

4): レバレッジとは、槌(てこ)という意味で、投入資金よりも多くの金額を運用することを言います。例えば、10倍のレバレッジであれば、10万円の金額で100万円の運用をすることです。最近、金融庁は個人向けFXにはこのレバレッジを抑制することを検討しています。上限が10~30倍程度になるのではないのでしょうか。

5) ハイリターン・ハイリスクは金融商品では多かれ少なかれ付きものです。要するに大きな収益が期待される商品は、その価格の振れ幅が大きくなるということです。リスクとは価格の振れ幅のことを言います。

6) 豪ドルは実際に、1年前は約100円/豪ドル、それが一時50円/豪ドル程度まで値下がりし、今現在は約70円/豪ドルです。為替の動きもこの不況の影響で大きくなっています。例題はむしろ穏やかなケースです。

## 株式状況と解説

日本の株式市場は、ここにきて9,000円の抵抗線を上に抜けてきました。これからは、新しい相場圏を作るものと考えられます。3月10日の7,000円から昨日は9,300円まで3カ月で2,300円(33%)も上昇してきました。この後、9,000円を割り込むような調整(下落)があってもおかしくないと考えます。これが最後の調整であると良いのですが。企業の業績が上向くには、まだ半年くらいはかかりそうです。株式市場は景気に半年ほど先行すると言われていています。今後の状況が楽しみです。

なお、この記述は株式等の売買をお勧めするものではありません。売買の判断はご本人でなさってください。

以上

このレポートの記述は、株式、保険等の売買を推奨するものではありません。株式、保険等の売買は自己の責任において行って下さるようお願いいたします。

ご意見、不明点など御座いましたらお気軽に連絡下さい。なお複写、転載はご遠慮下さい。

発行人: スズタカFPオフィス 代表 鈴木隆志 茨城県つくば市東新井4-2メゾンヴェールつくば612号

携帯: 090-4423-9147 Tel,Fax: 029-861-0778 E-mail: suzu@suzutaka.org URL: http://www.suzutaka.org